

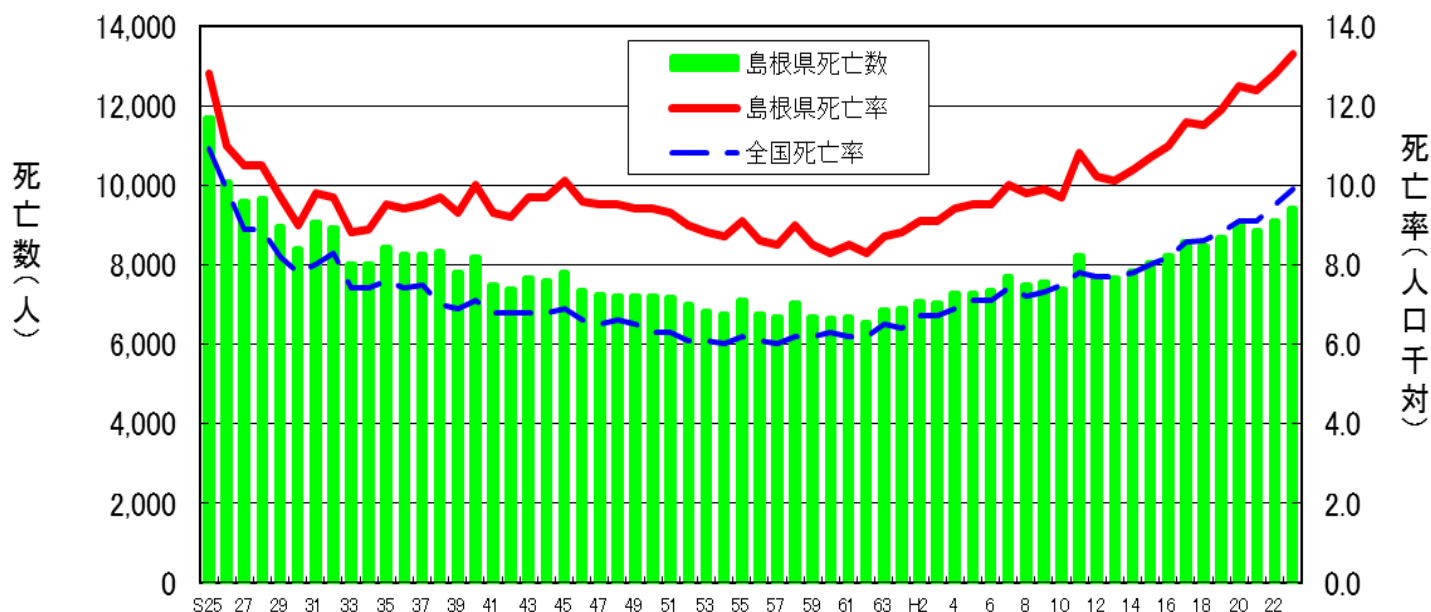
### 3 死亡

#### (1) 死亡数・死亡率

平成 23 年の死亡数は 9,410 人で、前年の 9,109 人より 301 人増加し、死亡率(人口千対)は 13.3 で、前年の 12.8 より 0.5 上昇した。

死亡率の年次推移をみると、戦後急速に低下していったが昭和 30 年代半ばから低下傾向が緩やかになり、昭和 63 年からは人口の高齢化に伴って再び上昇し始め、上昇の傾向をたどり続けている(図 4)。

図 4 死亡数・死亡率の年次推移



年齢階級別に死亡率(人口 10 万対)をみると、15~19 歳、25~29 歳、35~44 歳の各階級、50~54 歳、60~64 歳、及び 80 歳以上が前年より増加した。特に 80 歳以上の増加が著しい。

死亡率性比(男性の死亡率/女性の死亡率×100)を年齢階級別にみると、5~14 歳の各階級を除くすべての年齢階級において 100 以上となっており、男性の死亡率が高いことを示している(表 4)。

表4 年齢（5歳階級）別死亡数・死亡率（人口10万対）・死亡率性比

年齢階級	死亡数			死亡率			死亡率性比
	平成23年	平成22年	対前年増減	平成23年	平成22年	対前年増減	
総数	9,410	9,109	301	1,321.6	1,269.7	51.9	113.0
0～4	16	19	△ 3	57.1	66.8	△ 9.7	56.0
5～9	1	5	△ 4	3.3	16.2	△ 12.9	0.0
10～14	1	4	△ 3	3.0	12.1	△ 9.1	0.0
15～19	11	10	1	32.4	30.3	2.1	54.0
20～24	10	20	△ 10	40.0	73.2	△ 33.2	369.2
25～29	20	18	2	62.5	53.9	8.6	900.0
30～34	16	27	△ 11	41.0	67.7	△ 26.7	122.1
35～39	38	32	6	84.4	71.6	12.8	234.8
40～44	44	39	5	107.3	100.1	7.2	227.1
45～49	53	83	△ 30	139.5	205.3	△ 65.8	211.8
50～54	117	109	8	265.9	240.6	25.3	225.0
55～59	219	237	△ 18	438.0	448.1	△ 10.1	196.3
60～64	414	384	30	636.9	632.5	4.4	278.2
65～69	419	453	△ 34	974.4	991.6	△ 17.2	282.7
70～74	628	644	△ 16	1,495.2	1,483.1	12.1	270.3
75～79	1,136	1,145	△ 9	2,524.4	2,516.9	7.5	254.7
80～	6,266	5,880	386	8,244.7	7,951.3	293.4	148.9

注：死亡率性比＝男性の死亡率／女性の死亡率×100

平成23年は年齢不詳が1人いるため、死亡総数と年齢階級別死亡数の合計は一致しない

平成22年の死亡率は、平成23年との比較のため国勢調査による基準人口の総人口により算出

## （2）死因

### ①死因順位

平成23年の死亡数を死因順位別に見ると、第1位は悪性新生物で2,543人（人口10万対死亡率359.2）、第2位は心疾患で1,476人（死亡率208.5）、第3位は脳血管疾患で970人（死亡率137.0）となっている（表5）。なお、全国の死因は、第1位が悪性新生物、第2位が心疾患、第3位が肺炎となっている。

主な死因の年次推移を見ると、悪性新生物による死亡率は上昇を続け、昭和59年以降、死亡原因の第1位となった。心疾患は平成12年に死亡原因第2位となって以降、死亡率は上昇を続けている。脳血管疾患の死亡率は、平成12年以降、概ね横ばいで推移している。老衰はほぼ横ばいに推移していたが、平成19年以降上昇し続けている（図5）。

また、死因別の死亡率を都道府県ごとに見た場合、悪性新生物（全国第2位）、老衰（全国第2位）、慢性閉塞性肺疾患（全国第1位）が高い水準を示している。

図5 主要死因の死亡率の年次推移

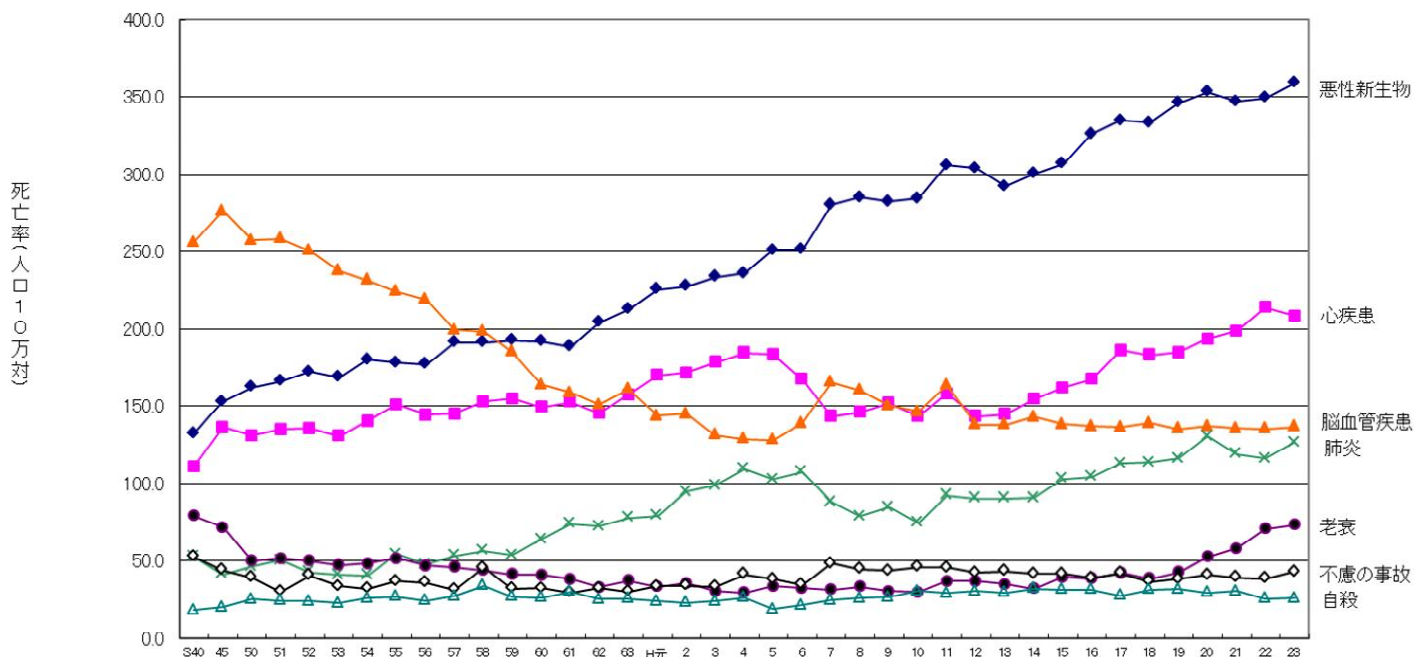


表5 死亡数・死亡率（人口10万対）・死因順位；性別

死 因	平成 23 年									平成 22 年		
	総数			男性			女性			総数		
	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率
悪性新生物	1	2,543	359.2	1	1,530	451.3	1	1,013	274.5	1	2,488	349.2
心疾患(高血圧性を除く)	2	1,476	208.5	2	615	181.4	2	861	233.3	2	1,525	214.0
脳血管疾患	3	970	137.0	4	452	133.3	3	518	140.4	3	967	135.7
肺炎	4	898	126.8	3	506	149.3	5	392	106.2	4	828	116.2
老衰	5	522	73.7	7	129	38.1	4	393	106.5	5	505	70.9
不慮の事故	6	305	43.1	5	178	52.5	6	127	34.4	6	277	38.9
自殺	7	186	26.3	6	138	40.7	12	48	13.0	7	184	25.8
腎不全	8	168	23.7	9	89	26.3	7	79	21.4	8	174	24.4
慢性閉塞性肺疾患	9	155	21.9	8	117	34.5	16	38	10.3	9	137	19.2
肝疾患	12	104	14.7	10	60	17.7	13	44	11.9	12	89	12.5

注：総数の10位は「大動脈瘤及び解離」及び「糖尿病」で、それぞれ死亡数105・死亡率14.8である。

男性の10位は「肝疾患」で死亡数60・死亡率17.7である。

女性の8位は「血管性及び詳細不明の認知症」で死亡数75・死亡率20.3である。

女性の9位は「アルツハイマー病」で死亡数69・死亡率18.7である。

女性の10位は「大動脈瘤及び解離」で死亡数59・死亡率16.0である。

## ②年齢別死因

平成 23 年の死因を性・年齢（5 歳階級）別構成割合から見ると、15～19 歳、20 歳代から 30 歳代までは自殺の占める割合が高く、女性と比較して男性の割合が高くなっている。また、死因順位第 1 位の悪性新生物の占める割合は、男性は 40 歳代から増加し 65～69 歳が最も高く、女性も 40 歳代から増加し、50～54 歳の年齢階級が最も高くなっている（図 6）。

図6-1 性・年齢(5歳階級)別に見た主な死因の構成割合(男性)

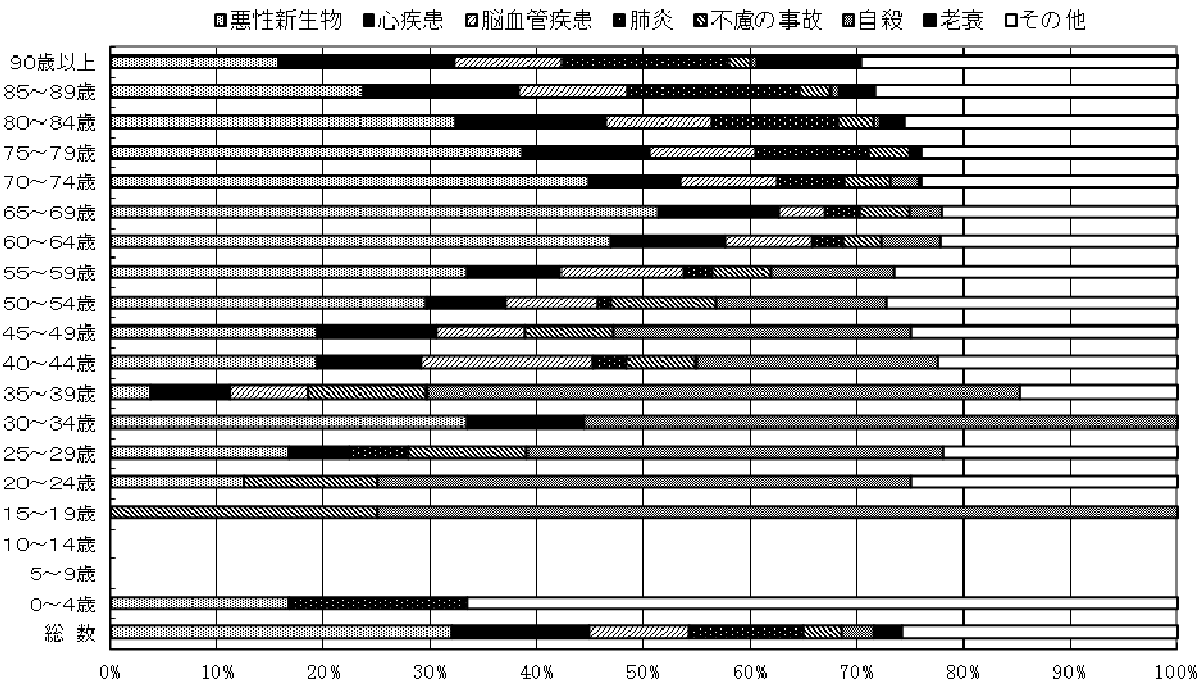
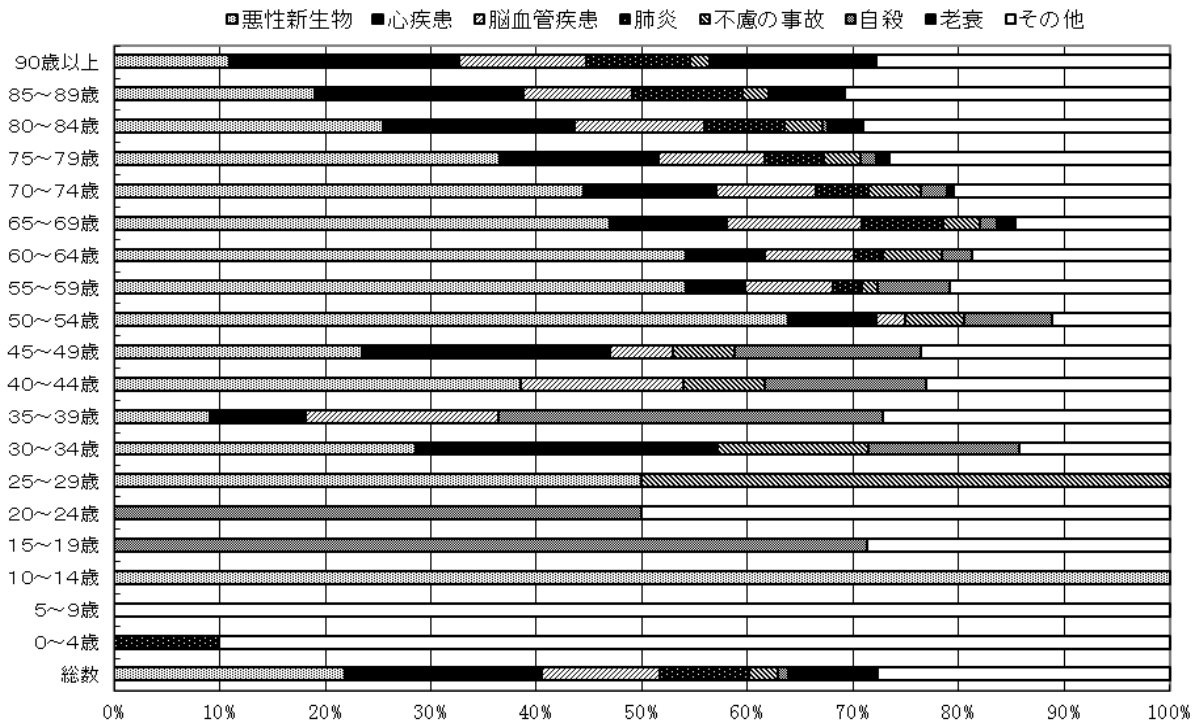


図6-2 性・年齢(5歳階級)別に見た主な死因の構成割合(女性)



### ③部位別に見た悪性新生物

悪性新生物について死亡数、死亡率を主な部位別に見ると、男性は平成 19 年をピークに下降していた肺が上昇に転じ過去最高の死亡率となった。女性は、大腸と胃を除いて減少した(表 6、図 7)。

表6 悪性新生物の主な部位別死亡数・死亡率(人口 10 万対)の年次推移

部位	S30	40	50	60	H8	12	17	18	19	20	21	22	23
死亡数													
<b>【男性】</b>													
胃	250	314	293	273	263	267	230	206	250	231	251	227	242
肺	19	61	82	169	250	299	363	316	358	331	308	301	352
肝	54	55	65	121	206	208	191	173	174	165	168	173	155
大腸*	23	42	48	79	151	163	164	160	136	183	162	168	177
<b>【女性】</b>													
胃	165	179	202	149	159	137	152	125	149	146	158	137	137
肺	8	18	32	52	109	98	107	124	113	124	119	123	101
肝	37	33	35	55	89	99	90	80	89	100	83	88	85
乳房	18	16	25	28	38	43	54	71	69	60	64	65	56
子宮	93	71	57	40	38	25	21	31	33	38	17	36	30
大腸*	30	44	48	85	123	125	150	165	146	168	146	140	154
死亡率													
<b>【男性】</b>													
胃	54.7	79.8	80.0	71.7	71.7	73.7	65.2	59.0	72.3	67.3	73.6	66.5	71.4
肺	4.2	15.5	22.4	44.4	68.1	82.6	102.8	90.5	103.5	96.5	90.3	88.2	103.8
肝	11.8	14.0	17.7	31.8	56.1	57.4	54.1	49.6	50.3	48.1	49.3	50.7	45.7
大腸*	5.0	10.7	13.1	20.7	41.1	45.0	46.5	45.8	39.3	53.4	47.5	49.2	52.2
<b>【女性】</b>													
胃	34.9	41.8	50.4	35.8	39.8	34.7	39.3	32.6	39.2	38.7	42.2	36.9	37.1
肺	1.7	4.2	8.0	12.5	27.3	24.8	27.6	32.4	29.7	32.9	31.8	33.1	27.4
肝	7.8	7.7	8.7	13.2	22.3	25.1	23.3	20.9	23.4	26.5	22.2	23.7	23.0
乳房	3.8	3.7	6.2	6.7	9.5	10.9	14.0	18.5	18.2	15.9	17.1	17.5	15.2
子宮	19.7	16.6	14.2	9.6	9.5	6.3	5.4	8.1	8.7	10.1	4.5	9.7	8.1
大腸*	6.4	10.3	12.0	20.4	30.8	31.7	38.8	43.1	38.4	44.6	39.0	37.7	41.7

注:大腸の悪性新生物は、結腸と直腸 S 状結腸移行部及び直腸を示す。

ただし、昭和 40 年は十二指腸と小腸を含み、昭和 50 年は肛門を含む。

図 7-1 悪性新生物の主な部位別死亡率(人口 10 万対)の年次推移(男性)

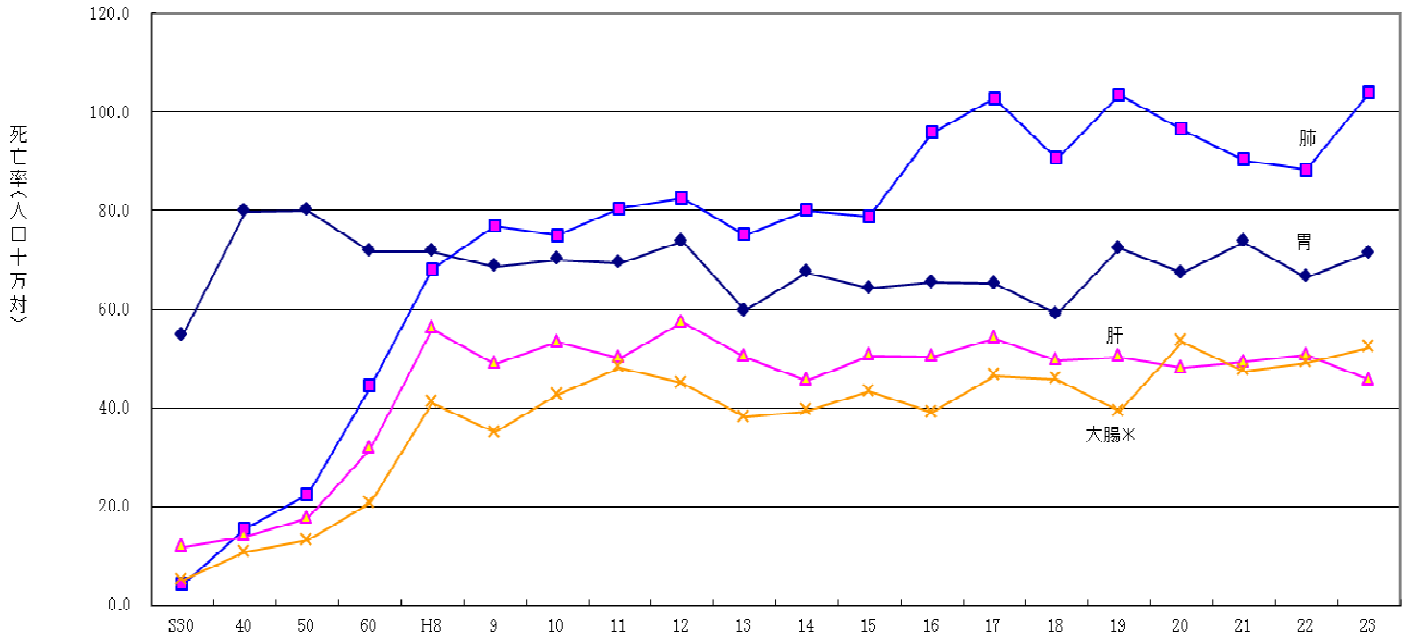


図 7-2 悪性新生物の主な部位別死亡率(人口 10 万対)の年次推移(女性)

